

第一号議案：2024年度 運営報告・事業報告（案）

法人

<2024 年度運営方針> 年1回の総会・年6回の理事会、月1回以上の法人内職員会議、運営会議を行い、運営方針に沿った事業を展開した。

方針	具体的な取り組み	2024 年度報告
① 事業展開	障害者福祉団体と連携をとり、精神保健福祉サービスの充実や社会資源の拡充を図る。さらに、台東区障害者地域自立支援協議会専門部会相談支援部会に参加し、区の障害福祉施策の充実に取り組む。台東区や障害福祉団体と連携を強化し、地域課題を踏まえた事業を展開する。	相談支援専門員連絡会では、精神障害者に対応するヘルパー事業所を増やすための取り組みとして、アンケート調査を実施した。今後、アンケートを分析し、課題解決に向けて取り組む。 また、台東区の委託事業（自主製品販売事業）について検討を重ね、法人として委託事業を受ける方向で検討することを決定した。
② 地域に根差した授産活動	台東区障害福祉課、台東区社会福祉協議会、台東区就労支援室、台東区内・近隣区の障害者支援施設と連携を図りながら活動を展開する。さらに、活動を通じて得た繋がりを活かした授産活動の展開を目指す。	パワーアップたいとうでは、販売会の企画に携わり、新たに販売会を企画した。そして、企画した販売会に積極的に参加した。販売会を通して、障害福祉課、社会福祉協議会、就労支援室、台東区・近隣区の事業所、他関係団体との繋がりを作ることができ、さらに、新規の作業の受注にも繋がった。
③ 安定運営	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の移転に伴い、東京厚生信用組合より借入を行ったため、月々の収支を把握しながら借入金の返済を行う。 ・収支バランスを見ながら、事業展開をする上で必要な人材の確保と定着に向けて取り組む。 ・月間、年間の事務作業一覧表と一覧表に沿ったマニュアルの作成。 ・会計事務の簡素化に向けた見直し、システム導入の検討。 ・社会保険労務士の顧問契約の検討。 	<p>月々の収支を把握しながら借入金の返済を行った。新規利用者を増やすための取り組みを強化したり、休日開所を実施した結果、就労継続支援B型事業所の実績は黒字となった。</p> <p>耕房“望”は登録利用者74名となったが、2024 年度実績は赤字となった。次年度も引き続き収支バランスを見ながら、事業展開をする上で必要な人材の確保に向けて取り組む。</p> <p>月間、年間の事務作業一覧表と、一覧表に沿ったマニュアルの作成は次年度も引き続き継続する。会計事務については、会計事務所から適宜助言をもらいながら進めることで、効率よく進めることができた。社会保険労務士の顧問契約については、今後の検討課題とする。</p>
④ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理・評価システムを活用し、利用者支援に関するスキルアップを図る。 ・支援技術の向上一月1回以上の外部講師によるスーパーヴィジョン実施、精神科医コンサルテーションの実施、外部研修への参加等を推進。 ・職務階層別研修や各種資格（サービス管理責任者、相談支援専門員、精神保健福祉士実習指導者、社会福祉士実習指導者、障害支援区分認定調査員）の取得・更新に向けた研修受講。 	<p>職位・職責に応じた目標管理・評価表を作成し、2025 年度より活用するための準備を行った。</p> <p>月1回以上の外部講師によるスーパーヴィジョン、精神科医コンサルテーション、外部研修に参加し支援技術の向上に努めた。また、各種資格の取得・更新に向け必要な研修を受講した。</p>

2025.5.23 特定非営利活動法人耕房 総会

⑤ 啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・正会員・賛助会員に向けた法人ニュースの発行（3回/年）、関係機関等にむけた広報誌「事業所通信」の発行（3回/年）、ホームページやSNS等を活用した情報発信を定期的に行う。ホームページについては、より見やすいものにするため業者への委託を含め検討する。 ・台東区主催の啓発活動に積極的に参加すると共に、他機関・他事業所との意見交換会や見学会を計画・実施する。 	<p>法人ニュースの発行、関係機関等に向けた「事業所通信」の発行、SNS等を活用した情報発信を定期的に行った。ホームページについては、台東区工賃向上デザイン支援を活用しリニューアルに向けて取り組んだ。</p> <p>また、3月に区内、近隣区の関係者・当事者を対象に、耕房“輝”の事業所見学会を実施した。意見交換会の実施は、他の会議等に参加することで目的を達成することができたため、開催を取りやめることとした。</p>
--------	---	--

耕房“光”

<2024年度運営報告> 一人ひとりの希望する生活の実現に向けて、さまざまな活動を提供した。

方針	具体的な取り組み	2024年度報告
①一人ひとりの希望する生活の実現に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を聞き、求めていることをくみ取り、活動内容、個別支援計画に反映させる。 ・アンケート調査を実施し、利用者のニーズを把握した上で、開所日を増やし、作業、食事の提供、レクリエーション等の活動を提供する。 ・スーパーヴィジョン、職員ミーティング、研修等を活用し、支援の質を高める。 	<p>アンケートやミーティングで利用者の希望を聞き、レクリエーションや日々の活動に反映させることができた。昼休みにはものづくりや余暇活動をする時間を設け、自主製品の制作などを利用者が主体的に取り組めるよう意識してかかわった。</p> <p>祝日開所し、作業の他に食事会やゲーム等を取り入れることで楽しみつつ働く空間づくりを実現できた。</p> <p>職員ミーティングやスーパーヴィジョンにおいてケース検討やかかわりの振り返りを行い、利用者理解を深め支援に活かすよう努めた。</p>
②新規利用者を増やすための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・区内、近隣区の相談事業所、保健所、就労支援室など関係機関と密に連絡をしたり、通信やSNSを活用し空き状況等の情報を発信する。さらに、関係機関とより良い関係を築く。 ・様々なイベントに参加し、事業所の広報活動をする。 ・新規登録利用者が通所しやすいよう、手順書を作成し安心して通える環境づくりを行う。 	<p>事業所の空き情報の発信、見学者や体験利用者を積極的に受け入れることで新規登録者は8名だった。新規登録者が作業や活動に安心して参加できるよう日々声かけ等を行うことで、新規利用者の利用日も増え始めてきた。</p> <p>インスタグラムをはじめとしたSNSの活用は検討段階で終わってしまったため、次年度の運用を目指していく。</p>
③工賃向上	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の作業目標を設定し効率よく作業をするように努め、作業のモチベーションを維持できるように働きかけることを継続する。 ・依頼された作業は断らず引き受け、取引先との良好な関係づくりに努め、できる範囲で作業単価の交渉をする。 ・季節イベントに向けての自主製品の制作を行い、販売する。 	<p>作業は効率よく進められる方法を検討し取り入れることでスピードの向上に繋がったものもあった。作業の完成度やスピードが上がったことにより、企業から難易度の高い作業など新たに依頼される作業が増えた。</p> <p>自主製品の制作に向け様々なアイデアを出し合い、販売会で販売することができた。台東区デザイン支援でアドバイスをいただき、方向性が見え、形になってきている。</p>

2025.5.23 特定非営利活動法人耕房 総会

④就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援に必要な関係機関と関係を作り、就労を希望する利用者に対して、就労に向けて取り組むことができるよう情報提供する。 	就労を希望する人に対して企業の見学会や体験の案内を個別に情報提供したことにより、2名が就労に結び付いた。
-------	--	--

耕房 “輝”

<2024 年度運営報告> 新規利用者の受け入れを増やし、安定運営を目指した。また、利用者一人一人に必要な支援を丁寧に行うよう努めた。

方針	具体的な取り組み	2024 年度報告
① 一人一人に必要な支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の考えや気持ちを引き出し、支援方針を踏まえた関わりと活動を提供する。 ・他者との適切な関わり方を身に着けることができる場や機会を提供する。 ・利用者一人ひとりが力を発揮することができる機会を提供する。 ・職員ミーティングやスーパーヴィジョンを活用し、利用者への関わりや働きかけを検討しながら実践する。 	<p>さまざまな障害特性の利用者の登録が増え、より個々への関わりや利用者間のやり取りへの介入を意識した。職員間で支援方針を共有し、ミーティングで関わりや声掛けの振り返りを行い、スーパーヴィジョンを活用してケース検討を行うことで利用者理解を深め支援を見直すことに繋がった。</p> <p>利用者ミーティングや行事等はこれまでの進め方では内容を把握することが難しい利用者が増えたため、利用者が理解しやすい方法で情報を提示することを意識した。また、利用者の得意なことをいかせるよう、既存の行事の他にアートワークショップをはじめとした他事業所と合同の活動にも参加した。</p>
② 工賃向上のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・作業スペースを有効活用し、効率的に作業を進める。また、1日の作業目標を掲示し、協力して作業を進めることができるよう働きかける。さらに、利用者の適性を見極め、必要に応じて治具やマニュアルの作成を行い、作業の質の向上に努める。 ・お菓子の受注量と販売先を増やすための取り組みを強化する。 <ul style="list-style-type: none"> －台東区関係機関や関係団体と連携し、積極的に販売活動に参加する。 －事業所1階で定期的に販売会を実施するとともに、店舗販売を開始する。 －通信やSNS、ネット販売を活用し、販売先の拡大に繋げる。併せて、大口受注、ギフト対応も実施していることを宣伝する。 ・講師に依頼し、新商品の開発に取り組む。 	<p>効率的に作業が進められるよう計画を立てることと、利用者の適性を見極めた役割分担を意識した。日々のヒヤリハット報告や関わりでの検討を通して利用者理解が深まりミスが減ったことや、作業をスムーズに進めるための機械を導入したことで作業の質の向上にも繋がった。</p> <p>販売イベントには積極的に参加し、新たな関係作りに繋がった。また、大口受注も断らずに受けることで受注拡大に繋がった。さらに、台東区工賃向上デザイン支援を受講し、ギフト販売の準備を行った。</p> <p>店舗販売や新商品の開発は販売会や注文分の製造に追われ取り組むことができなかったため次年度に向け準備を行っていく。</p>
③ 登録利用者を増やす	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新規登録利用者を増やす。 新規登録利用者を増やすために、活動内容や利用者募集について保健所、相談事業所等、関係機関へ積極的な情報発信・働きかけを行い、関係作りを継続する。 2. 登録利用者数の通所日数を増やす。 	見学者・体験利用者の受け入れを積極的に行い、新規登録者は9名だった。登録に繋がった利用者が安定して通所できるよう目標を確認して日々声掛けを行い、必要に応じて相談支援事業所等の支援者や家族との連携を図った。3月には事業所の見学会を実施し、事業所の活動内容を知ってもらう機会となった。

2025.5.23 特定非営利活動法人耕房 総会

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の声掛けや面談を行い、利用日を増やす。 ・個別スペースの設置等、安心して作業に参加できる環境を整える。 ・開所日数を増やす。 	祝日等に関所し、作業や食事会を行ったことで通所利用者数の増加に繋がった。
--	---	--------------------------------------

耕房 “望”

<2024 年度 運営報告>

安定した事業運営のため、利用者の受け入れを継続した。また、利用者一人ひとりに必要な支援に繋がれるように関係機関との連携を図った。

方針	具体的な取り組み	2024 年度報告
① 利用者の受け入れ拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員 1 名で、2024 年度契約者 100 名を目標とする。 ・受け入れ状況について、保健所や関係機関と随時情報交換・連携を図る。 	新規利用者の受け入れはできるだけ断らずにしてきたが、福祉サービスの利用が終了する利用者もいたため、契約者数の増加には至らなかった。また、計画相談だけではなく、一人ひとりに必要な支援を行うことを踏まえ、来年度は契約者数 80 名を目標に取り組む。
② 利用者一人ひとりの希望する生活を実現するために、必要なサービスの調整や情報提供をする	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの希望や不安を丁寧に聞き、安心して生活を送ることが出来るよう一緒に考える。 ・利用者の状況を把握し、適切なサービスを検討し、情報提供やサービス調整をする。 ・新たな社会資源の情報収集をし、支援の中で活用する。 	一人ひとりの希望や不安を丁寧に聞き、利用者の状況を把握した上で福祉サービスや他の社会資源につなぐため、情報提供や調整を行った。その都度、必要な資源の情報については収集するよう努めた。
③ ご家族、関係機関と協力し、利用者が地域で自立した生活を送れるように支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングを通して、利用者の状況を把握する。 ・適宜、ご家族、関係機関とのケースカンファレンスを開催し、利用者の生活について検討する。 ・関係機関と役割を確認し、支援体制を構築する。 	今年度はご家族単独での相談が増えた。利用者の生活状況の把握、ご家族が抱えている不安を聞き取りながら、今後の生活について一緒に考えた。また、モニタリングを通して、利用者の状況を把握し、地区担当保健師や関係機関と共有をすることができた。また、それぞれの役割を確認しながら、課題解決に向けて支援することができた。
④ 利用者に対するサービスの質の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーヴィジョンを通して、自身の実践を振り返り、より適切な支援ができるよう取り組む。 ・自立支援協議会や各種研修を通して、地域の社会資源を理解し、専門性を高め、支援の中で活用する。 ・月 1 回の保健所と基幹相談支援センター、相談支援事業所との連絡会などで利用者の個別ケースから地域課題を抽出して課題について検討し、取り組む。 	<p>スーパーヴィジョンの場でケース検討をすることによって、視野を広げて考えることができ、支援にも活かすことができた。月 1 回の保健所、基幹相談支援センター、相談支援事業所との連絡会ではヘルパー不足について区内のヘルパー事業所にアンケート調査を実施した。今後は結果を基に課題解決に向けて取り組む。</p> <p>また、支援の幅を広げていけるよう強度行動障害者支援者養成研修や主任相談支援専門員養成研修を受講した。</p>

2025.5.23 特定非営利活動法人耕房 総会
 <事業の実施に関する事項>
 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲 および人数	決算額(円)
障害福祉サービス事業	就労継続支援 B 型事業 耕房 “光”	週 5 日 月～金 開所	台東区東上野 6 - 18 - 17 2F	6 名	東京都在住の精神障害者 30 名	32,460,349
障害福祉サービス事業	就労継続支援 B 型事業 耕房 “輝”	週 5 日 月～金 開所	台東区下谷 3 - 17 - 12 2F	4 名	東京都在住の精神障害者 30 名	30,567,416
特定相談支援事業	相談支援事業 耕房 “望”	週 5 日 月～金 開所	台東区下谷 3 - 17 - 12 2F	1 名	台東区・近隣区在住の精神 障害者 70 名	7,234,429
精神保健福祉に関する 広報・普及・啓発活動 事業	広報誌「NPO 法人耕房ニュース」発行	年 3 回発行	台東区東上野 6 - 18 - 17 2F	4 名	主に NPO 法人耕房会員 40 名×3 回=120 名	44,816
	事業所通信発行	年 3 回発行	台東区東上野 6 - 18 - 17 2F	3 名	主に精神保健福祉関係者 50 名×3 回=150 名	